



にじのうた

虹の詩



千葉市立千城台西中学校

学校だより 06-12号

令和6年度千城台西中学校だより「虹のうた」は原則、毎月初めに発行し、学校の情報をお知らせしてまいります。

なお、ホームページにもアップしています。

卒業式 校長式辞

校長 大日方 一

肌寒さを感じつつも、春の訪れが少しずつ感じられるようになりました。このような中、108名の卒業生の門出を祝う良き日に、千葉市教育委員会教育総務部教育職員課管理主事 熊切 政貴 様をはじめ、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、千葉市立千城台西中学校第55回卒業証書授与式を挙行できますこと、心から感謝と御礼申し上げます。また、本校も伝統校として55回目の卒業式を迎えるとともに、今年度、卒業生の総数が1万人を超えました。素晴らしい節目を迎えたこと喜ばしい限りであります。



第55期卒業生の皆さん、先ほど手にした、卒業証書は、中学校の教育課程を修了したのと同時に、9年間の義務教育、全教育課程を修了した証明にもなるものです。それは、卒業生の皆さんのたゆまない「努力」「成長の証」となる大事なものです。卒業証書をしっかりと握りしめ、友人、ご家族と喜びを分かち合ってもらいたいと思います。そして、皆さんをいつも励ましてくれた多くの方々に感謝の心をもって千城台西中学校を巣立ってもらいたいと思います。

卒業式を目前に控え、皆さんが、「どんな卒業式にしたいか」というワークシートを作成してくれました。その中には「友達、仲間、親、地域の方々、先生方など、そばで支えてくれた人たちに感謝の気持ちを伝えたい」というコメントがたくさん見られました。また、「思い出に残る卒業式にしたい」「大人になっても忘れることのない感動的な式にしたい」として「在校生に感動を与える素晴らしい式にしたい」というコメントも多く綴られ、胸が熱くなりました。他の人をうやまう心、自分と向き合う態度をしっかりと育み、三年間で大きく成長したことを実感することができました。そして、今まさに「有言実行」している皆さんの姿を見て心から感動しています。皆さんとは二年間、学校生活を共にしました。いつも楽しそうで、仲間と共にたくさんの笑顔があふれていました。行事では、仲間のために身を粉にして活動する、思いやりの心をもっていました。また、仲間への愛情のある声掛けを絶やさず、共に行動し、団結・協力する言動をたくさん見ました。そして、やると決めたら一心不乱に取り組む姿も部活動や多くの活動で見られ、感動しました。本当に素晴らしい学年でした。これまで、千城台西中学校の伝統を継承し、更なる発展のために、一生懸命取り組んでくれた皆さんに敬意を表します。本当にありがとうございました。

卒業生の皆さんの前途を祝し、餞の言葉を送ります。アメリカのメジャーリーグで長年活躍した、元野球選手の「イチローさん」が1月下旬に「アメリカ野球殿堂表彰者」に選ばれた時のコメントについてです。表彰は約400人の記者が審査・投票し、イチローさんは殿堂入りを果たしました。しかし、1名の記者は殿堂入りに投票をしなかったことについてメディアは大きく報じました。満票を逃したイチローさんのコメントは、「1票足りなかったのはすごくよかった」「生きていくうえで不完全だから進もうとできる」と笑顔でインタビューに答えていました。私自身、このコメントを聞き「人間が日々成長するために必要な気持ち、心構えを改めて聞かせてもらえた」と解釈し、皆さんへ応援メッセージを送りたいと思いつきました。応援メッセージは三つです。

一つ目、「成長できるんだという信じ続ける気持ち」

これは、「向上心」とも捉えることができます。自分としっかりと向き合い、自分をどのように導いていくかを考え、自分を信じ、もっと成長するんだという思いをもつことがとても大事だと感じます。

二つ目、「成長のための方法・手段を考え続ける思考・行動」

これは、「思考力」と捉えてください。考えることをやめてしまえば成長は期待できません。どうすれば目標が達成できるか分析し、具体的な手段を考え、素早く行動を起こしてもらいたいと思います。

三つ目、「成長のために粘り強く取り組む継続的な実践」

行動しても失敗することや乗り越えられない困難に直面することがあると思います。あきらめずに粘り強く、自分自身にとって足りないものを追求し続ける継続的な実践、行動を起こすことで、完璧とは言わないまでも、自分自身にとって有益となるものをつかみ得ることができるのではないのでしょうか。

皆さんは、無限大の可能性をひめています。その可能性を自分の手でつかみ取れるよう、私が話したことを参考にしてもらえればありがたい限りです。応援しています。

ご来賓の皆様、本日は、ご多用の中、卒業証書授与式にご参列いただき誠にありがとうございます。卒業生をはじめ、本校生徒たちが安全・安心に日々学校生活を送れていること、皆様のお陰であること深く感謝申し上げます。今後とも、末永く本校のご指導・支援賜りたいと存じます。

そして、卒業生の保護者の皆さん、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。卒業生は、感謝の気持ちを伝えようと立派な姿でこの式に臨んでくれています。本日、ご自宅に戻られたら、お祝いとともに三年間の成長をしっかりと褒めてあげてください。お子様が成長した姿を迎えられたのも、保護者の方々の深い愛情を日々注がれたからだとお察します。三年間本校の教育活動に多大なるご理解、ご支援賜りましたこと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

結びに、108名の卒業生の門出を祝し、今後、ますますの成長と活躍をお祈りすることを祈念し式辞といたします。



卒業生答辞 M.T.

「石ばしる垂水の上の早わらびの萌えいづる春になりけるかも」

万葉集におさめられたこの歌は、新たな春の始まりへの喜びを詠んでいます。垂水とは、現在でいう滝のこと。轟音をあげ流れ落ちる水。その水しぶきを一身に浴びて、春の陽ざしに輝く深い緑。そんな色鮮やかな景色が浮かびます。まさに今の私たちにふさわしい歌だと感じます。千城台西中での三年間を終えた今、私たちの学年は、逞しさの塊だと確信しています。私はこの歌に出会ったとき、滝と新たな生命の力強さが、この学年の逞しさと重なって見えました。

三年前。桜が舞う入学式、友の瞳には春の澄んだ青空と期待と緊張が映っていました。西中の正門の前の坂は、まるで私たちの中学校へのステップアップを表しているかのようでした。そこには、私たちの背中を押す強い風が吹き抜けていました。

まだ少しぎこちなさが残る5月。一年生の校外学習は、雨のマザー牧場でした。牛の乳しぼり体験や迫力のある羊の大移動、かわいい動物たちとの触れ合いに心が踊りました。レインコートを着て、寒さに震えながら食べたソフトクリーム。隣の友達も震えていました。お互いを見て思わず笑いだしたあのとき。どの瞬間も笑顔があふれていました。

すべてに慣れ余裕が生まれた二年生の十二月。群馬県・赤城山での二泊三日。キャベツが主役の焼きそばづくりは煙だらけで顔をしかめたこと。そんな顔を見合ってまた笑ったこと。寒さで起きた朝。全力のドッジボール。館内をくまなく探し回ったフォトラリー。108個のキャンドルに揺らめく日は幻想的でした。

いよいよ最高学年となった4月。担任の先生はそのままに、メンバーだけが変わりました。どんなクラスになるのか、二年生の時とどう変わるのか、とても楽しみでした。でも、一か月たっても変わりませんでした。メンバーは変わっているはずなのに。それはたぶん、担任の先生という存在の大きさゆえだと思います。

落ち着きがあり静かさをもっているけれど、行事への熱と団結力はどこよりも強い1組。
昼休みになると大人数でのおしゃべりが始まり、先生の周りにはいつも人だかりがあった2組。
チャレンジ精神が強くにぎやかな人ばかりのはずなのに、なぜかまとまりのある3組。
一枚岩のような結びつきがあり、笑顔の絶えない5組。

この特長こそ、私たちの学年らしさだなと思います。それぞれのクラスで一丸となり、かつてない団結を見せた体育祭。悩み、ぶつかり合いながらも美しいハーモニーをつくりあげた合唱コンクール。平和の尊さを学んだ修学旅行。宮島の大きな鳥居に歴史の重さを体感しました。すべての瞬間にあったのは、笑顔でした。この笑顔こそ、どんなことでも乗り越えてきた私たちの逞しさの象徴だと思います。

そして、秋。自分の進む道を決める分岐点が近づいてきました。時間の流れが日に日に早まり、それとともに募る焦りと緊張は増えていくばかりの毎日でした。そんな私にとって、「いつもと変わらない我が家」は心の支えでした。私の変化に気づいても、いつも通りに接してくれたことがうれしかったです。お父さん、お母さん、十五年間ありがとう。今までもこれからもたくさん迷惑をかけるけど、ずっとよろしくお願いします。

私の支えは家族だけではありません。私たちはこの三年間でたくさんの先生方に支えられてきました。いろいろな場面で迷惑をかけたこともありましたが、私たちを時には導き、時には見守りずっと支えてくれたこと、本当に感謝しています。学年が変わっても話しかけてくれた先生、悩み相談に乗ってくれた先生、西中の先生方は自慢の先生方ばかりです。私たちのそばにはいつも先生がいる。その安心感は私たちの笑顔を支えた一つの要因です。先生方、三年間本当にお世話になりました。

受験が近くなると、クラスでも問題を出し合ったり、教えあったりすることが増え、友に切磋琢磨することがいつしかかけがえのない時間になっていきました。決戦の日が近づくにつれ、緊張が増す私にとって、普段と変わらず他愛ない話と笑い声が聞こえてくるいつもの教室は、私の確かな居場所でした。令和6年度卒業学年のあなたへ、三年間本当にありがとう。これまで一緒に過ごせた日々は、私の愛おしい宝物です。仲良くしてくれてありがとう。

毎日のおはようの声も昼休みの笑い声も、教室から見えるあの景色も、下校のときの騒がしさも、いつも交わした「またね」の中にある「当たり前」に続いてきた明日は、どんなに願ってももう来ることはありません。当たり前毎日がこんなにも大好きだったんだと気づかされます。それでも立ち止まるわけにはいきません。今は悲しさが、そして寂しさがあることでしょう。私もそうです。でもこの先には終わりではなく未来が待っています。私たちには、逞しさがあります。逞しさを支えた笑顔があります。それはこれからの私たちをきっと助けてくれるはずです。私たち、令和6年度卒業生108名は、笑顔で、ここ西中から世界の明日へ羽ばたいていくことを誓い、答辞といたします。



在校生送辞 S.M.

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じられるようになりました。この良き日に、千城台西中学校を卒業される3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方は西中で過ごしてきた三年間をどのように思い出されているのでしょうか。

私たちが先輩に出会ったのは二年前です。新しい環境になじめるか不安でいっぱいだった私たちに、先輩方は優しく、あたたかく接してくださいました。そして、今日にいたるまで私たちの先頭に立ち、お手本となってくださいました。

委員会活動では行事の準備を進めているとき、どのように指示を出したらよいのか困っていると、いつも笑顔でアドバイスしてくれました。本当は先輩だって忙しいのに、後輩を優先して手助けしてくれる。そんな姿に心を打たれると同時に、強いあこがれを抱きました。

先輩方と一緒に活動した行事の中で、私が一番感動したのは、合唱コンクールです。「協奏 十色の虹を作ろう」のスローガンのもと、全十クラスが合唱をしましたが、三年生の合唱は別格でした。実

行委員を中心に練習を進めていく中で、意見がぶつかり、うまくいかないときもあったことでしょう。それでも、練習が終わる最後の最後まで、その歌声は私たちのクラスに届いていました。迎えたコンクール当日。張り詰めた空気の中、まっすぐと前を向き、堂々とステージの上に立ち、流れてくる伴奏と共に力強く美しい歌声を会場に響かせていました。私たちの歌声とは声量も迫力もまるで違う、その歌声に行事にかかる想いとクラスの団結力の高さを感じ、心が熱くなったことを今でも覚えています。

私たちは、先輩方と過ごす中で「仲間と協力することの大切さや楽しさ」、「何事も全力で最後までやりきることの大切さ」など、さまざまなことを学びました。

どんなことにも全力で取り組み、頼りになる先輩。その先輩と過ごすことができた二年間は、かけがえのないものであり、私たちの誇りです。先輩方が今まで築き上げてきた、この千城台西中学校の伝統を私たちが引き継ぎ、これから、よりよい西中学校を創っていきます。

先輩方は今日、この千城台西中学校を卒業し、それぞれの道へと旅立ちます。その道の途中には、辛いことや苦しいことがあるかもしれませんが。それでも、それぞれの道を歩いていく先輩方を私たちは、いつまでも応援しています。三年間の思い出を胸に、未来信じて、この広い大空に大きな翼で羽ばたいていってください。

先輩方のご健康とさらなるご活躍をお祈り申し上げ、これまでの感謝を込めて送辞といたします。

第67回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会 出品作品

1月25日～2月2日に千葉市美術館にて総合展覧会が開催されました。

本校からも、14作品が出品されましたので、ご紹介します。

【美術】 K.K. (3年) N.T. (2年)

M.Y. (2年) K.N. (2年)

K.K. (1年)

【技術・家庭】

Y.A. (3年) A.S. (1年)

【特別支援学級】

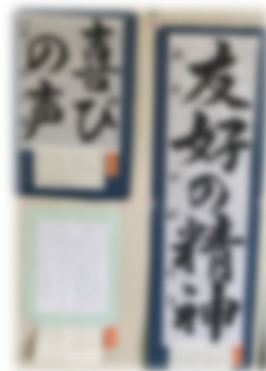
M.A. (3年) S.H. (3年)

K.S. (2年) K.M. (1年)

【書写】

N.A. (3年) I.A. (2年)

A.H. (1年)



入選

おめでとう

離任式のお知らせ

年度末教職員人事異動に伴う離任式を、3月24日（月）本校体育館にて実施します。

- ・スリッパ等の上履きをご持参ください。
- ・卒業生は、中学校の制服、または進学先の制服で登校してください。
- ・保護者の方は、直接体育館へお入りください。

※詳細は別紙でお知らせしたとおりです。

